

『国際交流写真展'90』を開催

～1年間の交流を振り返って～

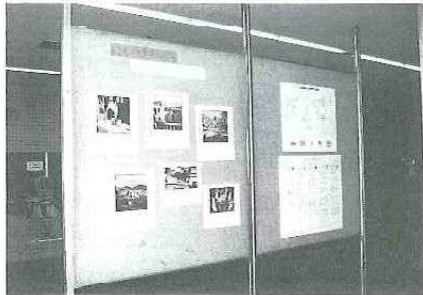
本協議会では、平成元年度の国際交流のあゆみを振り返るとともに、岡山市の姉妹・友好都市の概要を紹介し、広く市民に国際交流の楽しさや友好親善の大切さを認識してもらうため、岡山市と協力して『国際交流写真展'90』を開催しました。

会場の岡山市役所1階「市民ホール」には、「姉妹・友好都市との交流」「姉妹・友好都市のプロフィール」「岡山市国際交流協議会の交流活動」「インターナショナル・

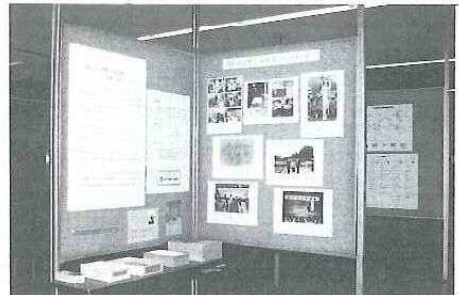
ウィーク事業」等、テーマ別に写真130点、地図8点、説明パネル1点を展示。

あわせて、国際交流に関するパンフレット類を配布し、国際交流活動への参加を呼び掛けました。

昨年8月27日から9月1日までの期間中、多くの市民や夏休み中の子供たちが見学に訪れ、姉妹・友好都市交流や国際活動に対する理解が深まりました。



◁姉妹・友好都市を紹介
サンノゼ、サンホセ、プロブディフ、洛陽の各都市の横顔を写真と地図で紹介。歴史・人口・産業等を分野別にまとめた「あれこれ比較」一覧パネルも掲示。



▷市制100周年事業

姉妹・友好都市から市長をはじめ代表者を招待。岡山市を含め5都市の関係者が一堂に集った画期的な10日間のふれあいを再現。



△協議会活動に参加して/
サンノゼ交換学生、国際交流講演会、姉妹・友好都市フェア、ボランティア通訳制度、ホームステイ登録制度等をPR。新規入会も呼び掛けた。

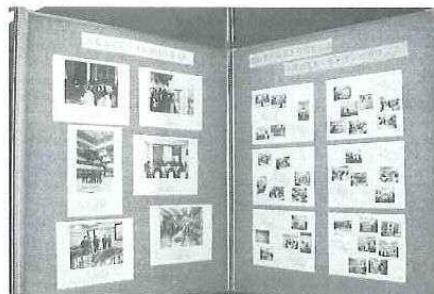
▽市民や学生に人気

会場正面には「国際交流ってなあに?」「姉妹・友好都市はどこ?」とパネル表示。『岡山市の国際交流活動をコンパクトにまとめた写真展』と見学者には好評。



▷外国人留学生も見学

福島大学に留学中の高国慶氏（洛陽市出身）も来場。洛陽市の概要や同市技術研修生の活動ぶりを紹介するコーナーでは、懐かしそうに展示写真に見入った。



◁ユニークな活動を展開
姉妹・友好都市交流、啓発事業、資料作成等の国際交流事業をテーマ別に紹介。事業概要でバラエティに富んだユニークな事業をPR。

—— 姉妹都市サンノゼ親善訪問団訪米 ——

昨年8月、世界的な芸術・文化の祭典を目指して開催された『第1回サンノゼ・ニューワールド・フェスティバル』に参加するため、本協議会では公募による「姉妹都市サンノゼ親善訪問団」18人と芸術家グループ（箏曲、大月宗明氏の投稿（P16）参照）を派遣しました。

サンノゼ市ではニューワールド・フェスティバルの種々の行事に参加するとともに、パシフィック・ネイバースをはじめとする市民団体や日系関係者とのふれあいを通じて、相互理解と友好親善を深めました。

8/2(木) 鹿子木市助役、梶谷会長等の激励を受け、一行は元気に岡山駅を出発。大阪空港から成田空港経由で一路サンフランシスコへ。



◀アメリカ到着
サンフランシスコ空港では、サンノゼ市代表のガーリッツ夫妻の温かい出迎えを受けた。

▶金門橋
フィッシャーマンズウォーフでカニ料理に舌鼓を打った後、霧の街サンフランシスコ市内を見学。



8/3(金) 早朝サンフランシスコを出発し、サンノゼ入り。ウィンチェスター・ミステリーハウス等を見学の後、サンノゼ市役所へ。



◀市役所表敬訪問
アルバラード副市長の歓待を受ける。団員は副市長から「名誉市民証」を手渡され大感激。

▶日本友情庭園見学
ガーリッツ氏等の案内で、後楽園を模した友情庭園内を散策。両市の友好の歴史を改めて認識。



▶歓迎夕食会
ジャパントウン再開発を目的に設立された「日本町社」主催。地域社会に根ざした日系人の力強さを感じた。



8/4(土) 前夜のオープニングに引き続き、ニューワールド・フェスティバルに参加。市内で繰り広げられた種々のイベントを楽しんだ。



◀サンノゼ州立大視察
台湾出身の二人の若い女性助教授の案内で大学構内の施設を見学した。

▶コンベンション・センター
89年春に完成したフェアのメイン会場で、数多くのイベントが開催された。



▶子供発見博物館見学
オープンしたばかりの、楽しみながら学べる博物館。子供達に混って童心に戻って楽しんだ。



▶歓迎レセプション
パシフィック・ネイバース主催。両市交流に忘れることができない懐かしい顔ぶれが集まった。



8/5(日) サンノゼから、バスでサンタクルーズにあるミステリースポットへ。不思議体験の後、海岸線の美しいモントレーとカーメルへ。爽やかなカリフォルニアの夏を満喫した。



◀モントレー

8/6(月)~8/8(水)

5日夕方、多くの関係者に見送られ、サンノゼ

空港から西海岸最南端の町サンディエゴへ。6日、シーワールドでイルカのショー等を見学後、メキシコ国境を越えてティファナでショッピング。7日、バスで最後の訪問地ロスアンゼルスへ。ビバリーヒルズ、ハリウッド等の観光を楽しんだ。

▶チャイニーズ・シアター

劇場前の歩道タイルには映画や雑誌で見た有名スターの手形、足形、サインが並ぶ。



*** 団員の感想 ***

今も忘れられないサンノゼの思い出

会員 長 安 早智子
(岡山市立南公民館館長)

どこまでも澄み切った碧い空、からっとした清々しい空気、のびのびとした空間と緑の美しい街並み、底ぬけに明るく笑顔の溢れるサンノゼ市民と肩を組み握手を交

わした温かいふれ合い——サンノゼ市の訪問では、実に多くの豊かな思い出を与えて頂いた。

平成2年8月、八木肇団長を中心に一行18名、約十日間の親善訪問の旅であったが、サンノゼ・ニューワールド・フェスティバルでの交流は、芸術文化の国際的イベントであり、陽気な米国の人々が広場に集まり夜を徹して歌い踊り楽しんでた。特に八木団長の微笑みに満ちた心温まるスピーチは印象的であり、拍手と歓声につつまれ大変好評であった。21世紀へ向けての最先端技術関連企業が集中する世界的な工業地帯「シリコン・バレー」、子ども達が生き生きと遊ぶ場を与える「子供発見博物館」など、未来を志向する優れた施設・設備には目をみはる思いがした。サンノゼは、生きた都市だと思った。その発展のかけに日系の人達の誠実な営みがあることを語られた女性副市長さんの言葉は胸に迫るものがあった。



宿泊先のホテルマンと（左から3番目が筆者）

—— サンノゼ・ジャパントウン100周年記念行事 ——

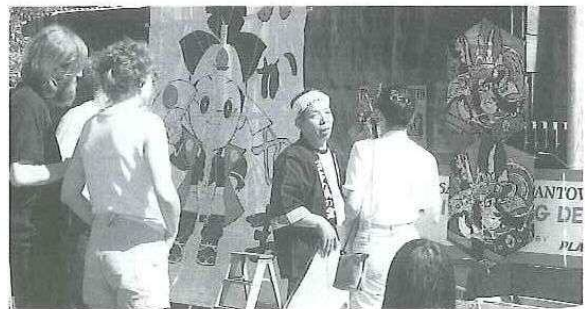
昨年9月、サンノゼ・ジャパントウンがめでたく誕生100周年を迎え、これを記念する様々な祝賀行事が開催されました。岡山市からは100周年記念事業実行委員会委員長のジミー・山市氏の招待に応じて「岡山風クラブ」代表の松井実氏がサンノゼを訪問されました。サンノゼ市滞在中は「和風」の製作実演やワークショップ、風あげのデモンストレーション等を通じて、多くの交流を深められました。

サンノゼ風紀行

松 井 実

サンノゼ市のジャパントウン100周年記念の行事として日本の伝統風の製作指導をして欲しいということで招かれた。引き受けたからには喜んでもらいたい。その気持ちで準備をしたのだが、実際には大変であった。サンフランシスコには委員長のジミー・山市氏の出迎えを受けた。前半の一週間は各地の観光地を案内して頂く。いよいよ記念行事開幕、昼間はイベントの目白押し、夜は私の担当の風作り教室。連夜5日間で4種類の風の指導、

絵柄も日本伝統の武者絵、役者絵を岡山で墨線だけをシルク印刷したものを使用し、参加者による手彩色。日系二世、三世の方達もはじめて見、そして自分で作りあげる風、みんな一生懸命だった。イベント最終日にみんなで風あげを楽しむ。私も岡山より持参の連風100枚、巾2メートル、天地3メートルの大風をあげてデモンストレーション。見物の人達より拍手を受ける。長くて短かった今回の風紀行、サンノゼより私に与えてくれた数々のフレンドシップはいつまでも忘れるものではありません。お世話になった方々、いつまでもお元気で！そして是非岡山にもおいで下さい。 シューアゲイン!!



風製作実演の筆者（中央/ハッピー姿）

拡がれ！友好の輪

～洛陽市友好訪日団の足跡～

昨年5月21日から4日間、「洛陽市友好訪日団」が京阪神地区を視察後、岡山市を親善訪問されました。一行は張世軍副市長を団長とする5人で、友好都市縁組締結以来の隔年相互訪問事業で来岡。翌年度以降の両市交流について意見交換したり、友好団体・企業等を表敬訪問されました。

また、半田山植物園「洛陽牡丹園」開園式に参列したほか、西大寺農協ライスセンター・イチゴ団地、セイレイ工業（農業機械製造）、後楽園、西川緑道公園等を視察。離岡後には「国際花と緑の博覧会」も見学し、岡山や日本に対する理解を深めました。

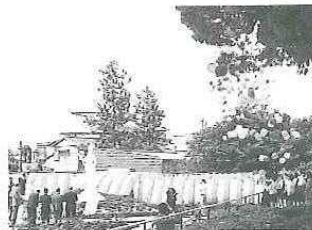


＜市長・議長と懇談

岡山市役所を訪れ、松本市長（当時）と妹尾議長ら市幹部に表敬。「中日友好萬古長青」の縁組記念旗を背に友好親善を誓い合った。

▷歓迎レセプション

日中友好関係者約100人が参加した歓迎夕食会では両市代表の友好促進の挨拶のほか、備前太鼓唄獅子舞・銭太鼓のアトラクションが友好に花を添えた。



＜岡山に咲け／洛陽牡丹

半田山植物園「洛陽牡丹園開園式典」並びに「牡丹仙女除幕式」に参列。洛陽市立実験小学校と友好関係にある平福小学校児童もお祝いに駆けつけた。

▷トラクターにも試乗

中国最大のトラクター工場を持つ洛陽市にとって、日本の先進技術は関心の的。セイレイ工業の協力を得て工場内を熱心に視察。



＜「せり」を見学

中央卸売市場では日本の流通機構や卸売制度について説明を受け、切り花のせりも見学。効率的な卸売りのやりとりに感心。



＜市政概要ヒアリング

農林水産業の振興、公園建設・管理等について、市職員から概要や問題点等を聴取。熱心に意見交換を行った。

▷思わず手が伸びて

果樹栽培技術等の視察に岡山県農業試験場を訪問。水稻栽培やくだもの育成について、実地に研修した。



＜世界最大の花にギョッ！花博会場（大阪）では世界最大の花ラフレシアや屋久杉の巨大根株に驚きの声。盛んに写真で記録をとった。

レン 任さんとワン 王さん



任智敏さん

中国第二の黄河の南に位置し、西安と並ぶ古い都で、三方を山に囲まれ、南に洛河が流

れています。地形は険しく、気候は温和で、古くから「山河をいただき、地形天下に並びなし」と言われています。

また、中国六大古都の一つで、遠く三千年の悠久の歴史を持ち、文化の都とも呼ばれるように、文人墨客が多く集まった都市で、孔子、老子のほか、漢書の班固、三国志の陳寿等が名著を残しています。また、唐の時代には白楽天、杜甫等の詩人や、地動儀を創案した張衡、紙の発明者の蔡倫、麻酔薬を考案した華陀等を輩出しました。

このように、洛陽市は中国文明の中心地であったので出土文物も豊富で、なかでも、唐三彩は有名です。

岡山市民文化使節団が訪中

～洛陽に花開く日本文化～

日本の伝統文化や現代芸術を広く洛陽市民に紹介し、岡山や日本に対する理解を深めてもらうため、昨年10月17日から4日間「岡山市民文化使節団」を洛陽市へ派遣。一行は団長の喜多嶋美枝子さん（元岡山市教育委員長）、顧問の福原弘子さん（岡山市議会議員）をはじめ、華道・千代種人形・日本料理・書道・染色・日本刺繍の専門家等、10人で構成。

専門家6人（女性）はサンノゼ交換学生に日本文化を教授するボランティア教師として活躍された方々で、工芸美術館・友誼賓館・鼎洛裁の3会場で、洛陽市民に伝統文化をわかりやすく説明。実地指導で日本文化の理解に大きな成果をあげました。



◁洛陽市訪問の挨拶

白光第副市長をはじめ市幹部をはじめ市幹部を表敬訪問。女性中心の訪問団ならではの華やかな雰囲気の中、文化交流の夢を語り合った。



△華道（岸本啓洋さん）



△千代種人形（沢まさ子さん）



△日本料理（畠瀬恵美子さん）



△書道（林抱宇さん）



△染色（船津通子さん）



日本刺繍（山川かつ子さん）▷

ルオヤンの洛陽紹介



王彤さん

中国三大彫刻芸術の一つである龍門石窟には1,352の石窟があり、17.4mから2cm

まで、大小10万体の仏像が彫刻されています。白馬寺は仏教が中国に伝来して最初に建てられた寺で、1,900年の歴史を持っており、洛陽博物館では様々な出土文物や歴史的資料を収集展示しています。

岡山の皆様、是非一度、友好都市“洛陽”にお越しください。熱烈歓迎いたします。

任智敏さんは洛陽市役所外事弁公室（国際交流担当）職員で、王彤さんは洛陽外国語学院卒業生。2人は昨年10月に岡山県日中友好協会研修生として来岡。現在、岡山アスコン（株）で元気に研修中です。



◁洛陽部楽団と交流

洛陽市滞在中には、伝統ある宮廷芸術「洛陽部楽（しょうがく）」演奏団チームと交歓。翌年の岡山公演の成功を確信した。

交換学生としての一年

平成元年度派遣交換学生

伊藤 洋子

交換学生として過ごした日々を振り返ってみて、真っ先に心に浮かんでくるのは、お世話になった人達の顔です。ホストマザーのパム。母親として、女性として、心から尊敬する素敵な人です。私を責任感のある大人として信頼してくれると共に、常に思いやりの気持ちを忘れず、家族の一員として温かく迎えてくれました。35歳、IBMのマネージャー、夜勤。エネルギー源は、趣味のケーキ作りでしょうか。ホストブラザーのジェイソン、ホストシスターのタミー。高校生二人からは、6カ月の間、アメリカの若者文化を学ばせてもらいました。

ホストグランドマザーのルビー。クリスチャンの彼女からは、何事にも感謝の気持ちを持つことと、心の広さを教えてもらいました。世代の違いを感じさせない程、色々なことを語り合った2か月間でした。ホストブラザーのケビン。ヘビメタ、長髪と初めて会った時は、驚き

ましたが、人間は見かけではなく、中身が大切だということを実感しました。ルビーを助け、一家の明るい太陽です。アメリカの文化、ジョーク、スラングと、私からの山のような質問に、一生懸命に答えてくれました。

サンノゼ州立大学コミュニケーション学科のウエンシユー・リー先生。勉強面だけでなく、留学生の先輩として、生活面まで心遣いをして下さり、大いに励まされました。若い彼女は私の一番の親友です。

このような素晴らしい出会いの機会を与えてくれ、また、支えてくれた岡山市・サンノゼ市の関係者の方々に、感謝の気持ちで一杯です。そして、娘のサンノゼ行きに理解を示し、日本から励ましの手紙を書き続けてくれた両親に、心から有難うと言いたいと思います。



ヨセミテ国立公園にて
(左側が筆者)

♡♡♡ My Memory サンノゼ ♡♡♡

サンノゼだより

平成元年度派遣交換学生

榎 真由美

「肌色」って変な言葉だなあ——サンノゼに来て数カ月たったある日、なかなか来ないパスを待ちながらふと考えた。日本では、その言葉は当然のように「日本人の肌の色のようなベージュ」を指す。しかしこの国では“Color of skin”といえは白、黒、黄色、それらの混合と無限の可能性があり、特定の色の名前には成り得ない。「私は今、そんな言葉の存在しない国にいるんだなあ」としみじみ思った。サンノゼでの一年は、そんな小さな事のひとつひとつから、日本人としての自分の一元的な



ホストファミリーと(右から2番目が筆者)

考え方、ものの見方に気づかされる年であった。

アメリカは、様々な国から集まった人々によって構成された国であるため、一国にいながら世界的な感覚を持つていられるように思う。実際、学校で世界各国からの学生と話してみると、一つの事柄に対しても各々が違った見方をしている興味深い。今回の湾岸戦争も、ある者にとっては自分の故国での戦いであり、また、ある者にとっては自分の家族が兵士として参加する戦いであった。それは資金援助のみにとどまった日本人の「対岸の火事」的見解とは全く違ったものであつたらう。関心の高さを示すように、平和と兵士の無事帰還を願う黄色いリボンが家々の窓、車のアンテナなどに結ばれていたのが印象的だった。

交換学生としての一年は、ホストファミリーや学校の楽しい思い出と共に、多角的視野をもって物事を考えることを教えてくれた。現在もサンノゼ大学で勉強を続けているが、交換学生制度が打ち切られると聞き、残念でならない。形はどのように変わろうとも、この素晴らしい交流が早期再開されることを遠いサンノゼから願う。

〈事務局からのお知らせ〉

伊藤さんと榎さんは現在は私費留学生として、引き続き、サンノゼに滞在中です。

すばらしい思い出・岡山

平成2年度受入れ交換学生
トリシユ・クック

昨年の夏の岡山での滞在は、私が今までの中で一番思い出深いものでした。2カ月という短い間でしたが、とても多くのことを学びました。

備前焼・刺繍・真多呂人形・お琴・お料理・生花等々、とても楽しく、日本の人々や文化を理解するのに役立ちました。また、岡山のすべてに興味があったので、岡山の街、お店、家々をよく見て歩きました。民泊家庭の齋藤さんは、日本や日本の家庭のことを親切に教えてくれました。吉備津神社・岡山城・後楽園・瀬戸大橋等、歴史的な美しい場所を訪れるのもとても楽しかったです。

送別会では着物が着れてとてもうれしかったです。着物を着るのがどんなに難しいがよくわかりました。また、サンディ、土屋先生一家、尺八の先生、ヒラリーさん達と一緒に、習った曲をお琴で演奏できたのは、とても名誉なことでした。さらに先生方の御指導で作った作品を

皆さんに見てもらえてうれしかったです。

岡山滞在中、親切にいろいろ教えて下さり、素晴らしい思い出を下さったすべての人々にとっても感謝しています。多くの人達と出会い友達になれたので、岡山を離れる時はとても悲しかったです。

私は、今年の8月に結婚することになりました。このことは、私が岡山から帰つてすぐ(15分後)に決まりました。きっと日本の神様が私の願いをかなえてくださったのでしよう。

私は卒業後、日本での経験を生かして日本とアメリカの貿易に関わる仕事をしたいと思っています。いつか必ず、岡山に帰ってきたいと思います。岡山の皆さん、本当にありがとうございました。

着物を着せてもらう筆者



♥♥♥ My Memory オカヤマ ♥♥♥

楽しかった夏の思い出

平成2年度受入れ交換学生
サンドラ・メイ

岡山の皆さんお元気ですか。岡山ではいろいろお世話になりました。私の岡山の滞在はとても短かったですが、多くのことを勉強し、多くの人に会い、いろいろな所へ行き、本当に楽しい思い出になりました。

民泊家庭の原田さんにもとても親切にしてもらい、気楽に暮らせました。ホストシスター達と一緒に相撲を楽しく見ました。私は貴花田の大ファンです。



町内会の七夕祭り(中央右寄り黒いベストが筆者)

岡山滞在中、伊島町内会の皆さんが私のために歓迎会を開いてくれ、一緒に天ぷらをつくったり、踊りを踊ったり、写真を撮ったりしました。七夕祭も経験しました。子供達と一緒に飾り付けをしたり、歌を歌ったり、いろいろなことを話しました。

また、生花・真多呂人形・お琴・書道・刺繍等の日本文化や日本語を楽しく習うことができました。その中で一番好きなのはお琴でした。書道はとても難しかったのですが、やりがいがありました。先生方にはいろいろと教えていただき、本当にありがとうございました。

岡山では、友達がたくさんできました。貴子さんとトリシユさんと一緒にカラオケに行つて歌を歌ったことはとても楽しい思い出です。

民泊家庭や友達といろいろな所へ行きました。倉敷・瀬戸大橋・牛窓・広島・宮島・京都・奈良・東京・鎌倉等へ連れていってもらいました。市内では後楽園や岡山城等へ行きました。日本には多くの素晴らしい所があると思いました。

岡山へ来る前は、日本語は上手ではありませんでした。しかし、短い間でも岡山に住んで、少しは上手になったと思います。たくさんすばらしい思い出をありがとうございました。いつかまた岡山へ行きたいと思っています。

音楽を通しての国際交流

会員・サンノゼ交換学生ボランティア教師

大月 宗明

(日本音楽大道派宗家)

昨春、洛陽市の牡丹苑の開園式に参加しました。天安門事件から約一年を経っていたので中国の友人達の元気な顔を見てほっとひと安心…。

往復の途中、北京の中国音楽学院を訪問し、天才少年達の熱心で優秀な演奏を聞き、訪問団一同大変感動しました。この学院には、多くの朋友・知人がいます。北京に行かれた時には訪問されてみてはいかがでしょうか。

7月に、私の長男、一正は7年間の留学を終え、上海音楽学院を卒業して帰国しました。我が家族の中国訪問・交流にガイド兼通訳として洛陽市にも度々行っております。留学のお世話になった故・岡崎嘉平太先生のことや、世界初の試みに「万里の長城」で挙行した長女の結婚式等々、長男にとっては、思い出多い中国は第2の故郷ではないでしょうか。

8月、爽やかな夏、「サンノゼ・ニューワールド フェスティバル」に日本音楽の演奏使節として私達一行6名

は招かれて行きました。以前サンノゼ市に贈呈した箏2面も博物館の地下室に大切に保管されていました。

8月12日夜のコンサートは感動的でした。終演後1時間以上も多数の聴衆客が舞台袖に押しよせて、質問したり、楽器に触ったり、写真を写したり。カルチャーショック！。通訳全員は大奮闘。このような自然発生的現象はあまり前例が無いとのこと。本格的な「日本音楽鑑賞会」は珍しいようで、日本文化再認識との評でした。21世紀の人類平和に役立つ、民族文化、音楽の国際連盟を夢見て、今は、「アジア箏曲連盟」創設の準備をしています。(まず身近なものと思い)



サンノゼ市役所にて(左から3番目が筆者)



人と人とのふれあい

ボランティア通訳登録者

前 明 美

(大学生)

“Our lovely earth, create the next decade.”のテーマのもと、「国際青年の村'90」(総務庁主催)が昨年7月27日から8月2日まで、愛知県で開かれました。世界23カ国300人の青年が参加し、私も日本青年の1人として参加させていただきました。

皇太子殿下の御臨席を仰ぎ、華やかに開村式が行われました。一週間の日程で、グループでの討議を中心に、参加各国を紹介するミニ万博、おもちゃ展、国際青年フォーラムなど色々なことがありました。討議では、地球



「国際青年の村'90」参加の様子(左端が筆者)

会 員 投 稿

私の『国際交流この一年』

が抱える問題とその解決の為に青年が果たすべき役割を考えました。全体として、環境問題への関心が高く、その他、発展途上国の問題なども話し合われました。参加青年の方々の環境に対する意識の深さ、真剣な姿勢に感動し、私にとって大変勉強になりました。また、この青年の村では実に多くの国々に同世代の友達ができ、とても素晴らしいことでした。大学で日本語を専攻しているトルコの方は、徳川時代に大変興味があり、御当地へ来られて感無量ということでした。日系ブラジル人の方も、「おじいちゃんに習った」という日本語で、色々な話をしてくださいました。国際交流の基本は、人と人とのふれあいやつながりということを改めて強く感じました。ここでできた友達から、私の誕生日やクリスマスに、カードやプレゼントが届き大変感激いたしました。この友情をこれからもずっと大切にしていれば必ず再会する約束をしました。青年の村に参加する機会を持てましたことに、とても感謝しております。今年は、ボランティア通訳として、もう少し活発に、積極的に、色々なことに幅広く挑戦していきたいです。皆様、今後ともどうぞよろしくお願いたします。